

関係人口  
と協働する  
【産業振興】

# 2025 地域資源利活用プロジェクト

## - 篠笛事業化 -



**実施者**

＜教員＞ 千葉工業大学 未来変革科学部 経営デザイン科学科 教授 加藤 和彦  
 千葉工業大学 情報変革科学部 高度応用情報科学科 助教 中川 泰宏

＜学生＞ 千葉工業大学 情報科学部 情報ネットワーク学科 中川研究室  
 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 加藤研究室

＜協働パートナー＞ 【行政関係】 南房総市役所 市民生活部 市民課 市民協働グループ  
 【企業等】 みねおかいきいき館（南房総市大井）、合同会社いもんだ（香取郡神崎町）  
 【市民団体等】 南房総市大井区、東金市篠笛ワークショップ実行委員会（東金市）、南房総市南千倉青年会

### 1. 背景・目的

本プロジェクトは、南房総市で広範囲に群生する篠竹の有効利用と、その事業化を目的とする。具体的には、伝統工芸品である篠笛に向けた篠竹が同市に広く自生していることから、この篠笛をブランド化して販売すると共に、素材としての篠竹も合わせて販売することを目指している。このプロジェクトの活動は、2018年度の「空き公共施設活用プロジェクト」から始まり、2020年度の「人材育成支援プロジェクト」を経て、2021年度に新たなプロジェクトとして独立し、現在に至る。活動場所には、篠笛に適した篠竹が豊富にあり、他のプロジェクトと協働活動を行い、すでに協働関係を築いていた大井地区を選定している。このプロジェクトの発足の前段階として、2018年度に試験的な篠竹の採取を始め、篠笛文化の周知を行う活動として篠笛ワークショップを開催した。その後も継続的に篠竹の採取を行いながらノウハウを蓄積し、同時に市民向けのワークショップも開催することで、南房総市における篠笛のブランディング化活動を続けている。本稿では2025年度に活動した取り組みについて報告する。

### 2. 活動内容

本プロジェクトは、南房総市の篠竹を篠笛としてブランド化するとともに、篠竹を素材化して販売することを目指している。篠笛は直径2cm程度の太さを持つ篠竹を素材とし、製作者によって工程が入れ替わることもあるが、表-1のような工程を経て篠笛となる。これらの工程は大きくまとめると、工程1～5番の篠竹採取、工程6～7番の篠竹保管、工程8～11番の篠笛作成の三つに分けられる。ここで、一つ目の篠竹採取は、採取・切断・選定・煮沸・洗浄の5つの小工程に分けられ、二つ目の篠竹保管は天日干し・陰干しの二つの小工程に分けられる。そして三つ目の篠笛作成は、製管・調律・

色塗・籐巻の4つの小工程に分けられる。ここで、持続可能な事業として篠竹を販売・利用するためには、いくつかの販路を確立し、有効な用途を見出すことが必要である。本プロジェクトでは、以下の4つの手段で篠笛・篠竹の販売・利用することを計画している。

- ① [愛好家向け] 篠笛用素材としての篠竹の販売
- ② [工房向け] 篠笛用素材としての篠竹の販売
- ③ [一般向け] 篠笛ワークショップでの利用
- ④ [一般向け] オリジナルブランドとしての篠笛の販売

このうち、③については、篠竹を採取している地元大井の体験館「みねおかいきいき館」にて2020年12月から実現しており、2024年度には③として開催した篠笛ワークショップの体験者を対象に①の位置づけでこの活動で採取した篠竹の販売も行っている。現在、継続的にワークショップを開催しながらノウハウの現地への移管を行うとともに、南房総市や東金市などのお囃子関係者との協働活動として幅を広げている。2025年度は、これまで篠笛の事業化を深める縦方向の活動に加えて、篠笛事業に係る関係人口を増やすことで事業の現地化と発展性を目指す横方向の活動を行った。

### 3. 成果と課題

本プロジェクトは現在、表-1の工程1～7の篠笛用篠竹の準備と、工程8～11の篠笛ワークショップの二つを主な2本柱として活動を行っている。ここで、2025年度の活動内容を表-2へ示す。活動の基本となる篠竹の採取活動については、2023年度採取分の虫食いによる篠竹の全損を受けて、2024年度に検討した採取時期の見直しと工程の一元化が功を奏したことから、2025年度も同じやり方で採取を行った。場所はこれまでの活動場所である南房

表-1 篠竹の採取から篠笛作成までの工程

No.	工程名	工程内容
1	篠竹の採取	竹林から篠竹を採取する
2	節の切断	採取した篠竹を節単位で切断する
3	篠竹の選定	切断した篠竹から篠笛に利用できるものを選定する
4	煮沸(油抜き)	選定した篠竹の油抜きと煮沸殺菌を行う
5	洗浄	煮沸した篠竹の汚れを落とす
6	天日干し	篠竹の色抜きと篠竹の対候性を確認する
7	陰干し	陰干しによる長期の保存によって対候性を確認する
8	製管(初級講座)	篠竹に穴を開けて音がなるようにする
9	調律(中級講座)	製管した篠笛の音を調律する
10	色塗(上級講座)	調律した篠笛に仕上げとして色を塗る
11	籐巻(上級講座)	篠笛の割れ防止とデザインのために籐を巻く



図-1 篠竹採取の様子(2026/1/10)(上段左)、図-2 工程5洗浄後の篠竹(2026/1/10)(上段右)、図-3、4 2025年度の篠笛ワークショップの様子1～2(下段左、右)

表-2 2025年度活動内容

No.	日程	活動内容	会場
1	2025/10/26(日)	ワークショップ(WS)事前準備 ・用具・消耗品等の確認 ・篠竹の選定(60本,3名)	みねおかいきいき館 (南房総市大井)
2	2025/11/1(土)	WS用篠竹の事前加工 (60本,5名参加)	東金市
3	2025/11/15(土)	古典調律ワークショップ(1名2本作成) (工程8,50本,25名参加)	みねおかいきいき館 (南房総市大井)
4	2026/1/10(土)	篠竹の採取・切断・選定・煮沸・洗浄 (工程1～5,577本,14名参加)	みねおかいきいき館 (南房総市大井)



### 域学協働の工夫!

- ★事業を後押しする行政との協力関係
- ★地域住民の理解と協力
- ★専門性の高い人材を現地とつなげる工夫
- ★ステークホルダーの相互利益につなげる取り組み

総市大井地区にあるみねおかいきいき館近隣の篠竹林とした。また、時期については、虫害の影響を防ぐために気温の低い2026年1月とし、工程1～5を一度に行った(工程3は時間の都合で仮選定のみ)。その後の工程6,7は篠竹の保管を行うみねおかいきいき館に委任することで虫害の影響を減らしつつ、作業の効率化を図っている。この時の作業の様子を図-1,2に示す。本年度の取れ高は昨年度の402本に対して577本となった。活動スケジュールはほぼ同じであるが、前年度に比べて採取人数が増えたことに加えて、篠竹に理解の深いお囃子関係者の割合が大きかったことが取れ高の向上に寄与したものと考えられる。

一方、本年度の篠笛ワークショップ活動は、南房総市のお囃子関係者との接点を拡大することを目的とした。具体的には、参加者の一般公募に合わせてまずは関係者の伝手から接点を広げるべく、南千倉青年会のお囃子関係者へ声掛けを行った。その結果、既存の参加団体として、みねおかいきいき館からスタッフ5名、東金篠笛ワークショップ実行委員会から2名、千葉工業大学から教員2名、学生8名の参加があり、新規団体として南千倉青年会7名、個人の参加として君津より1名のお囃子関係者が参加した。本年度の篠笛ワークショップはドレミ調、古典長の二つ笛を各参加者が作り、笛作りの意見交換を通して有意義な時間を過ごすことができた。こ

の時のワークショップの様子を図-3,4に示す。これまでは事業の工程化を中心とした縦報告の活動となっていたが、ある一定の成果が得られているため、本年度は横方向の活動へと広がりを持たせ、活動に平面的な広がりを持たせることができた。

本年度の課題としては、篠竹の採取日程が年度初めのため、ワークショップ参加者の予定が合わず交流を深める機会損失につながったことから、次年度の採取ではその点も踏まえたスケジュール調整が必要であると考えられる。

### 4. 今後の展開

関係者の努力により事業化が少しずつ進み、篠笛ワークショップが現地ワークショップとして定着している。また、2024年度より、収益化の一步として篠竹の販売も実現している。本年度は南房総市を中心としたお囃子関係者との接点も拡大し、お囃子関係者の交流に向けた第一歩となった。今後もこれらの活動を通して交流の場を広げつつ平面的な展開を行う予定である。そして、篠笛事業化に係る関係人口を増やすと共に、篠笛事業の付加価値をより高めるべくオリジナルブランドの販売に向けた準備を進めていく予定である。